

環境影響評価書案のここが問題！

交通量は減っているのに、道路新設が必要？

本当に34,200台/日も車が通るの？

都は「環境影響評価書案」において、3・3・8号線が開通予定とされる2019年度の計画交通量を、最大34,200台/日と予測しています。現府中街道の交通量は18,139台/日ですから、その約1.9倍に及ぶという予測です。本当に、こんなに交通需要が増えるのでしょうか？

近年、交通量は横ばいか減少傾向です

現府中街道の自動車走行台数は、2001年から2009年まで、ほぼ横ばいです（「小平市の環境」2010年度）。同様の傾向は、全国、関東臨海部（東京、神奈川、埼玉、千葉）の交通センサスでも認められ、1999年～2005年の6年間で比較すると、いずれも10%以上減少しています。（図2）

また、東京都自身、高齢者の増加や、人口が2015年をピークに減少に向かうことを、今後の東京の大きな問題として認めています（「東京の都市づくりビジョン（改定）」2009年7月）。さらに、国分寺、小平、東村山は、農住調和地区と位置づけられており、開発計画の予定はありません（「多摩の拠点整備基本計画」東京都、2009年8月）。

これらの状況を考慮すると、2019年度に34,200台/日の交通量が発生する要因はなく、過大な予測であることは明らかです。

日々の暮らしを支え、潤いをもたらす緑のこと

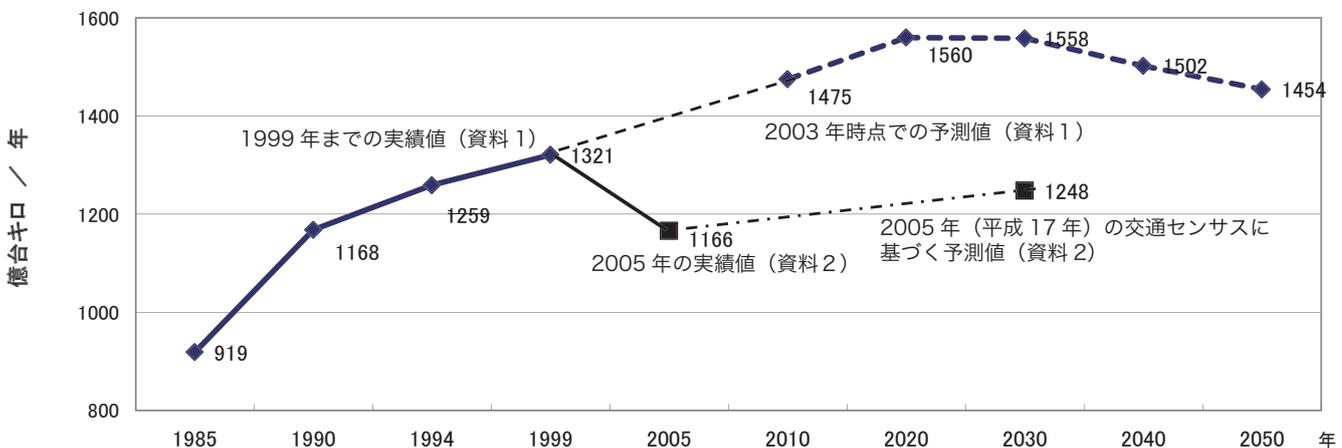
中央公園一帯の玉川上水と公園東側の樹林地は、「ひとつのつながり」としてあることで、私たちの暮らしを支えています。玉川上水は、ご存じのように、散策に訪れる多くの方に親しまれています。樹林地でも、ホテルのタベ、ツリーライミング、自然観察会、幻燈会、プレーパーク、アートフェスティバル等、様々な催しが行われています。住民がこれほど足を踏み入れて楽しめる雑木林は、そうはありません。

また、この緑は催しに使われるだけでなく、普段の暮らしを支えています。太極拳やゲートゴルフ、休憩の場所であり、認知症のご婦人が安心して歩き回り、退職後の男性たちが同じ境遇の仲間と過ごす場でもあります。園児たちも、遠足にやってきます。

この場所が利用しやすいのは、車の危険がなく、安心していられる場所だから。そして、なんといっても気持ちいい！この夏の酷暑日でも緑道や樹林地は涼しく、温暖化問題を肌で感じました。

東京都は、この場所を道路にする場合、ここの樹木を「可能な限り環境施設帯に移植する」と言いますが、環境施設帯では、ゲートゴルフも自然観察会もできません。そして、仲間との語らいも。

図2 関東臨海（東京・神奈川・埼玉・千葉）交通量予測と実績



出典：資料1「関東地域における将来自動車走行台キロ」：「高速自動車国道の将来交通量推計手法説明資料（ブロック別将来走行台キロおよび自動車保有台数の推計）」2003年（平成15年）12月よりグラフ作成（実線および鎖線）（第2回東京外かく環状道路の計画に関する技術専門委員会「外環の将来交通量推計参考資料」別添2）

資料2「交通需要推計と事業評価手法の見直し」（関東地方整備局事業評価監視委員会2008年度）2005年実績値と、2005年（平成17年）センサスによる2030年の交通量予測（一点鎖線）